

令和5年度 第1回 みやま市総合教育会議 会議録

◆日時 令和5年11月15日 午後3時30分から

◆場所 みやま市役所山川支所 2F 大会議室

1. 出席構成員（6名）

- ・市長 松嶋盛人
- ・教育長 待鳥博人
- ・教育委員 井上正明
- ・教育委員 宮本 篤
- ・教育委員 北原 八州子
- ・教育委員 大塚 美智恵

2. 事務局出席者（12名）

[市長部局]

- ・副市長 三重野 直 美
- ・総務部長 西 山 俊 英
- ・秘書広報課長 久保井 千 代

[教育委員会]

- ・教育部長 藤 吉 裕 治
- ・教育総務課長 堤 則 勝
- ・学校教育課長 末 吉 建
- ・社会教育課長 山 田 利 長
- ・指導室長 姉 川 左希子
- ・教育総務課長補佐兼総務担当係長 牛 島 美千子
- ・学校教育課長補佐兼学務担当係長 河 野 成 嗣
- ・教育総務課学校再編推進担当係長 中 島 豊 晴
- ・学校教育課給食担当係長 石 橋 将 和

3. 次第

1. 開会

市長あいさつ

教育長あいさつ

2. 議事録署名人

市長：松嶋 盛人

教育委員会：大塚美智恵

3. 議事（協議・報告事項）

○協議・報告事項

(1) 学校給食整備の基本方針策定について

(2) ワンヘルス教育の推進について

(3) 教育大綱について

(4) その他

4. 次回開催予定

令和6年 月頃

5. 閉会

当日配布

- ・ 令和5年度第1回みやま市総合教育会議資料
 - 学校給食整備の基本方針策定について
 - ワンヘルス教育の推進について
 - みやま市教育大綱（案）

午後3時30分 開会

1. 開会

○市長あいさつ

第1回の令和5年度みやま市教育総合会議ということで、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。また日頃から市政に対してご尽力いただきましてありがとうございます。本日は色々な内容があると思いますが、総合教育会議の中でご意見を拝聴しながら、今後の市の

教育施策に役立ててまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。以上です。

○教育長あいさつ

皆様改めましてこんにちは。松嶋市長におかれましては、総合教育会議を開催していただきましてありがとうございます。この機会を通して、学校の様子や子ども達の様子も少しお話ししたいと思っております。子ども達の実態といたしましては、やはり全国的な傾向として本市も例外ではありませんが、いじめ、不登校の増加ということが第一にあげられると思っております。不登校の子ども達を出さない、生まないためにも、不登校になってからの手立てを考えるよりも、学校教育の充実を図り、まずは学校に行きたい、学びたいというような子ども達を育成しなければならないと思っております。その一環として、二学期制を試行実施、実践いたしております。本市では、「みやま市？（はてな）に挑戦する調べる学習コンクール」というものを開催いたしました。市内の小中学校から1,600点という多くの作品が寄せられました。全児童生徒の7割が出品したということになります。これは、二学期制のもと、子ども達がじっくり腰を落ち着けて、長期にわたり調べ学習に取り組める環境が整ったことが一因ではないかと考えております。今年はワンヘルスをテーマにしたものも多く見受けられ、子ども達にワンヘルス教育が浸透しつつあることを実感しております。さらに GIGA スクール構想のもと、子ども達に1人1台端末が実現し、様々な教育活動で子ども達が使いこなしている姿を目にします。今後、学習の中で思考ツールとしての活用をさらに推進していきたいと考えているところです。各学校には授業の充実を柱に、体験学習のさらなる推進をお願いしております。また先日開催されました青少年健全育成大会では、小中学生、そして今年からは山門高校の生徒2名も参加し、意見発表をしました。ここでもワンヘルスを主題とした意見が発表されました。また人口減少などについて、市への政策提言もありました。小学生から高校生まで、発達段階に応じた多様な意見が見られたと思っております。本市でも様々な教育

課題等がございますが、ワンヘルス教育、キャリア教育につきましては一歩ずつではございますが、前進しているのではないかと捉えております。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 議事録署名人の指名

(市長) 松嶋 盛人

(教育委員) 大塚 美智恵

【全員同意】

3. 議事（協議・報告事項）

○協議事項

(1) 学校給食整備の基本方針策定について

【学校教育課長】学校給食整備の基本方針策定について説明 [別紙資料]

【教育長】今、説明をいただきましたけれど、これについて意見交換をさせていただこうと思っております。皆様ご存知のように、この総合教育会議で決定していくということではございません。意見交換をしてお互いに共通理解をはかり、教育委員さん方と市長、そして副市長、総務部長、秘書広報課長等、そういう方々と意思の疎通をはかっていくことが狙いですので、いろいろな視点からご意見を出していただければと思っております。どなたか、おられませんでしょうか。北原委員さん、どうぞ。

【北原教育委員】学校給食の基本方針策定の中にありましたように、将来的に大規模給食施設を建設するということですが、跡地問題も抱えております。統合によって閉校した小学校の利活用も含めて検討できないものかと思います。地域の中でも、跡地利用はできないのだろうかという声を拾っております。また、給食だけではなくワンヘルスの授業に関しても、統合後の学校の使い方、跡地問題にも関わっていくのではないかとと思っております。そこで、市長としては、跡地の件も含めまして、どのようなお考えであるか聞かせていただきたいと思います。

【市長】

学校跡地の活用につきましては、旧校区の学校跡地活用検討委員会で検討を進めていただいているところでございます。その中で、給食施設をそこに建設するということには、すぐにはならないということです。また、調理場は施設の構造としてドライ方式とウェット方式があり、ほとんど今の主流はドライ方式です。厚生労働省からもドライ方式ということで、そういうものを作ると。今現在、ドライ方式は山川の給食センターと瀬高小学校の2つでございまして、あとはまだウェット方式です。そういう面ではまだ改善の余地がありますが、1つ1つ老朽化しているところを直していくと大変な金額がかかってきますので、やはり集約していかざるを得ないという考え方があるわけです。その中で、どこに作っていくのかも含めて今後検討を進めていく必要があると思っております。利便性とか、場所的な問題もありますので、跡地活用をすぐという状況ではないとご理解いただければと思います。

【教育長】

建設場所については、今後また色々と協議をしていくことになるのではないかと思います。他にございませんでしょうか。学校給食、あるいは全般的なことでも結構ですので。市長の思いとしましては、先ほど語られたように、安全安心で美味しい給食が一番だろうと思いますが、如何せん給食施設の老朽化という事もございます。そういった意味も含めまして、委員さんたちの方から、お考えがあればご披露いただきたいと思います。井上委員さんどうぞ。

【井上教育委員】

みやま市もそうですが、柳川市、それから八女市や筑後市でも学校の統廃合が急速に進んでおります。この学校給食設備の新しい施設の設置については、みやま市だけで考えていくのか、それとも隣の筑後市あるいは柳川市あたりと連携しながら新しい施設を作るのか、というところも含めて考えていくことが必要ではないのかという気がしておりますが、その辺はいかがでしょうか。みやま市だけで総合的な給食施設を作るのか、それとも長い将来を考えて、筑後市、あるいは柳川市と協力しながら、共同で新しい給食施設を作っていくのかという質問です。

【市長】 お答えいたします。私は八女市も筑後市も勤務した経験がございます。柳川市については詳しい状況は分かりませんが、近隣と共同で給食センターや共同調理場を作るという事については、学期制の問題や学校のシステム、時間割等も含めて違いがありますので、すぐに進めるという事については考えておりません。また、柳川市におきましても学校統合が順次進められており、それも10年計画で作られておりますが、他市のことでございますので順調にいくかどうかは難しい部分があります。現在は本市独自だと私は考えております。

【教育長】 近隣を見ますと、荒尾市と長洲町が共同で給食センターを作っているということでございます。将来的に見ると、ひょっとしたらそういう形もできないことはないかと思えます。

【市長】 教育長もおっしゃいましたが、そういう方向もあるかもしれませんが、私が今まで見てきた中で、筑後市は業者委託をしている学校と直営とあります。ですから、中々調整が難しいのではないかと考えております。最近では、物価高騰で会社が倒産し、学校給食が滞ったという状況も他県でございましたし、そこも含めて、総合的に考えていかなければいけないと思っております。

【教育長】 市長は校長経験もございますので、子ども達のことをしっかりと考えて、安全安心ということでお考えをお持ちだろうと思っております。現在みやま市は、自校炊飯それから直営ということにしてありますが、児童生徒数の減少や施設の老朽化を考慮すると、やはり施設の集約化ということを経験して、基本方針を策定させていただきます。そのような中で、学校給食に対する思いとか願いとかございましたら、委員さんからご意見をいただきたいのですが、何かございませんでしょうか。宮本委員さん何かございせんか。

【宮本教育委員】 先程市長が、みやま市独自に進めていくと言われましたが、新しい施設を作るときに、やはりみやま市独自のコンセプトみたいなものを持った方がいいのではないかと自分は思っています。ちょうど今、ワンヘルスを強力に押し進めていこうというところであれば、みやま市が作る新しい

給食センターを、ワンヘルスのコンセプトを反映させたようなセンターにするとより良いワンヘルス教育が広がるでしょうし、市民への意識づけにもなるでしょう。効率だとかコストだとか、そういった部分だけでなく、コンセプトというところも重視して建設を進めていただけたらと思っています。

【教育長】 非常に参考にさせていただきご意見でした。みやま市の将来像というか、将来こういうふうにみやま市が成長していきますというところで、1つのコンセプトの中にワンヘルスも加える、給食センターにもそういう意味合いを持たせていくということではないかと思っています。他にありませんでしょうか。では、学校給食については、今、基本方針を策定中ということでございますが、こういった方向で、大まかなところよろしいでしょうか。決定ではありませんが、共通理解をしていただいたということではないでしょうか。願っておられる方が多数おられますので、この辺で、学校給食整備の基本方針は終わりたいと思います。

(2) ワンヘルス教育の推進について

【学校教育課長】 ワンヘルス教育の推進について説明 [別紙資料]

【教育長】 今、推進について説明をいただきましたが、ワンヘルス教育推進でご意見、お考え等ありませんでしょうか。

【宮本教育委員】 先程、説明にもあったように、各学校でワンヘルス教育ということで様々な取り組みが行われています。動物と触れ合ったり、自然を大切にしたりというところで進められているのですが、市長も色々なところで、みやま市はワンヘルスを進めていくという事を発信していただいています。ワンヘルスが、みやま市としての1つの起爆剤になるというような事も言われていますが、具体的に、みやま市として、ワンヘルスが浸透した結果、人がどういう状態になっているのか、この市の姿がどういう状態になっているのかという将来像がある程度はつきり共通認識として持てると、各学校でワンヘルス教育の取り組みをより具体的に進めてい

けるのではないかと思います。市長としての、ワンヘルスの町みやま、その将来像をお聞かせいただければと思います。

【市長】

それではお答えいたします。現在、子ども達にワンヘルス教育ということで様々な取り組みを小中学校等で行っているわけでございます。また、ワンヘルスの森などに出かけて行き研修も進めているわけでございます。ワンヘルスの考え方というのは、まだまだこれから浸透、拡大していかないといけない部分でございます。まずは、ワンヘルスに対してのものの見方、考え方、動物の健康や人間の健康、また自然環境の健全性は一体のものであるという考え方のワンヘルスの取り組みで、普段の生活の中で、私達自身がワンヘルスの中で健康な生活をしているという意識を子ども達が持つことがまず大事だと思っております。そういう意味で、私どもは今まで学校教育の中でどういう事をやってきたかという、環境教育という事をやってまいりました。環境教育というのは、どちらかというと、植物、植生とかそういう部分が中心でございまして、動物に関しての繋がりや植物の方に重点を置いたものでした。コロナウイルスにしてもそうですが、私達の健康、特に感染症では、約1,400種類以上の人獣共通感染症がある中で、60数パーセントが動物由来だということですから、そういう意味からすると、私達が普段健康を守っていくためには、動物の健康も私達の健康も一緒に考えていかなければいけません。子ども達がそこを認識し、日頃から健康を守るためには私達はどのような活動をしていったらいいのか、また学んだ事を今度は家族の方、地域の方とかへ、子ども達が発信力になって伝えてもらえれば、本市のワンヘルスに関する認識も深まっていくのではないかと考えています。合わせて、やはりワンヘルスを通じて、私達の生活は自然の理に生かされているということを学び、興味を持ち、そして将来的には子ども達の勉強意欲、方向性、将来の仕事とかそういう部分に繋がるように、それからもう一つ、みやま市がワンヘルス教育をすることで、日本初、世界初という形で、子ども達が今実践している内容においてワンヘルスの一つの教育体系を構築しカリキュラムを作成中との事ですので、それをワ

ンヘルスセンターが開設するくらいまでにきちんと醸成していけば、さらにその広がり、福岡県内の他の小中学校や高校、また全国の小中学校に発信していける町になっていき、みやま市として、子ども達や私達みやま市民の大きな誇りになるのではないかと考えます。そういう意味で、シビックプライドを持つ大きなきっかけになるのではないかという思いを持っております。まだまだ他にもございますけれども、子ども達の将来像からすると、本当にみやま市というのは、そういう意味ではワンヘルスの先進地であり、素晴らしい環境で自分たちは育て、それを発信しているというシビックプライドを持った子ども達がどんどん出ていってくれば素晴らしいまちになるのではないかという思いがいっぱいございます。

【宮本教育委員】 ありがとうございます。ワンヘルス教育をやって、子どもから発信していくという話がありましたけれども、その保護者、家庭、成人している人への認知について、子どもからの発信だけではなくて、大人への教育も多分必要になってくるのではないかと思います。

【市長】 おっしゃる通りだと思います。その辺も含めて、県のワンヘルス推進室等の計画や考え方と合わせて、議会とともに市民の皆様にも色々な広報活動を通して浸透していくようにしていきたいと思っております。

【教育長】 副市長、総務部長も来ておられますので、県から副市長が参られておるところですので、ワンヘルス、県の考え方とか推進などございましたら、副市長の方からもお願いしたいと思っております。

【副市長】 県の立場でというよりも、みやま市としてはワンヘルスを何故進めていくかということで、私の考え方をお話ししますと、ワンヘルスというのは、今まで言われていた SDGs と同じ路線だと思います。今までは人間が第一、人が便利に生きていくためにはどうなのかというところで、環境破壊等が進められてきたと思いますが、まず人が健康なままで快適に暮らしていくためには、やはり動物にも注意を払わないといけない。環境にも気を付けていかなければいけない。そういった目線でこれから先の将来を切り開いていく必要があるということだと思います。みやま市で

は、今度、産業団地の造成等もやっていきますが、そういった時にも動物のことや環境のことも考えながら、みやま市の発展を進めていかなければならないと思います。この後の教育大綱にも書いてありますが、みやま市の子ども達が小さいころから当然にその考えを持って育っていくことにより、今後のみやま市の発展は非常に持続可能なものになっていくのではないかと考えております。

【教育長】

ありがとうございました。副市長も申されましたように、市長の思いと、それからやはりワンヘルスというのを、先程宮本教育委員さんが言われましたコンセプトの中に加えていくというのは、今後みやま市の大きな手法になるのではないかと考えているところでございます。その他、ワンヘルス教育等に関わってご意見等お聞かせいただければと思います。

【大塚教育委員】

今までのお話と重なるのですが、山川中学校でワンヘルスの授業、養護の先生と細菌の専門家の先生との授業を拝見しましたが、菌について、子ども達に大変わかりやすく説明されていました。子ども達も理解していたようですし、家で親御さんにこの授業の話をして欲しいと、絶対親御さんたちにも聞いていただいた方がいいお話だと切実に感じました。子ども達から発信するというのは、まず身近な家庭に持ち帰って、そしてその家庭から色々な方向に広がっていく事が一番大事だろうと思っております。その点、いかがでしょうか。

【市長】

私もそのように思います。ワンヘルス教育をすることで家族のコミュニケーションも増えるし、日頃から私たちの健康を親子で一緒に考えながら、家族でワンヘルスに関しての認識が深まったりしていくこと、また家族の交流でさらに温かい家庭、家族になっていくと、やはり、先ほど副市長が話されたように、SDGs の理念にしっかり適っているものと思っております。

【教育長】

本当に子ども達は、指導を受けたり学習したりすると、砂漠の砂が水を吸うように浸透していきます。それに対して、大人の方々は、なかなかそういうところが難しい部分もございますので、多方面から、やはり子

ども達もその中での1つの大きな手がかりと申しますか、その他も多様な手法を用いながら、ワンヘルスの普及、啓発を進めていかなければならないと感じているところでございます。

【副市長】

市としてワンヘルス教育を進めていく狙いの1つが、まさに先ほど大塚委員が言われた通りです。子ども達に学習してもらい、今日こんなことを教えてもらったよ、こんなこと習ったよと家で話してくれることで、家庭にも普及していく効果があると思います。実際に昨年度末でしたか、教育委員会では、みやま市の小学校高学年と中学生を対象にワンヘルスという言葉を知っているかどうかアンケートを実施しています。そして、保護者にも同じようなアンケートを実施したところ、6割ぐらいが知っているという答えで、これは、福岡県が県全体で行った県民アンケート調査では多分4割にも満たないぐらいだったので、その時点で大きな効果が現れていました。子ども達は本当に吸収するのが早いので、新しい言葉にも全然抵抗なく覚えていくので、子ども達からどんどん波及していくといいという考えでおります。

【北原教育委員】

子どもから発信、とてもいいことです。さっき副市長もおっしゃられたように、まずはワンヘルスという言葉を知る。それがまず1つです。ワンヘルスという言葉にみやま市は特化していつているので、大人が子どもから教えてもらうことで、それ何、ああ、そういうことなのねと、そういう意味では本当に子どもからの発信で、大人もしっかり興味を持つことが重要になってくると思います。また周りに高齢者が多くて、高齢者にはワンヘルスという言葉がなかなか浸透しにくい感じを受けますが、高齢者なりに動物に関わり、自然環境でも菌に関しては、昔からお味噌や麹菌そういうものを大切にしてきました。言葉では今の若い人達に付いていくのは難しいかもしれませんが、段々と言葉が普及することで、最近では私たちの周りでもワンヘルスへの関わりというものを感じる事が多くなりました。ありがとうございます。また私たちも進めていきたいと思っております。

【井上教育委員】 もう少し具体的にお伺いしたいのは、令和 9 年に新しいセンターができるということですが、そのセンターと学校を結ぶ教育内容についてどのように進めようと考えられるのか、その辺を少々お伺いしたいと思います。

【教育長】 教育委員さんの質問に私が答えるのもどうかと思いますが、私の考えを少し述べさせていただきます。令和9年度にワンヘルスセンターが稼働しますが、あそこは10万平米ほどの広大な土地で、その6割ぐらいを使われる予定です。その中に、ビオトープみたいなものを整備されたり、森や色々な体験ゾーンを整備されたりというようなお話を聞きました。私はこれからの教育は受動的ではなく能動的に、子ども達が主体的に学習していくことが大切だと常々思っております。冒頭、不登校の子ども達のことにも少し触れましたが、やはり楽しい学校、そして学びたい学校になっていないのではないかという事も含めて、そういう体験ゾーンに行き、泥まみれになったり汗を流したり、昆虫を追いかけたり、いろんな動物がそこでどのような方法で飼育されるかわかりませんが、そういうところで学習していけば、大きく繋がっていくのではないかと思います。保健環境研究所の方々も出前授業をしていいと言われておりますので、各学校に出向いてもらい、最先端の科学的なことをお話いただければ、キャリア教育にも繋がるのではないかと考えているところです。

【市長】 私の方からもお伝えしたいのですが、保健環境研究所の方達はまさに研究員です。おそらく100人を超えるのではなかろうかと思いますが、その道の専門家がせっかくおいでになるので、知識や知恵を、研究所の中だけではなく開かれた形でみやま市の子ども達にお伝えいただく場、授業等でお力添えいただく場があるならば、教育長が申し上げたように、色々な物事に興味や関心を持つと思います。それからもう一つ家畜保健衛生所へおいでになられる方が約10名おられます。獣医師さんです。また、新たに動物保健衛生所ということで、ペットとか展示動物、動物園の動物や野生動物、そういう部分の研究等もそこでされるので、やはり動物に対しての価値ももちろんですが、人間だけではなく色々な生物全

体に対しての知識も学ぶことができるならば、教育長が申しあげましたように、みやま市子ども達にとって、将来、大きなキャリア教育にも繋がっていくのではないかと考えております。

【副市長】 県のワンヘルスセンターに関する事なので私の方からもお話したいと思っております。ワンヘルス教育に関しては、教育委員の皆さん方、それから学校の先生方のご協力もあって、本当にみやま市、一歩先を行って、一歩どころか何歩も先を行っていると思っております。県の方でも、当然ワンヘルスセンターを使って教育を進めていかなければならないという考えはあるようで、その中でみやま市がワンヘルス教育をやっているということと、みやま市にワンヘルスセンターができるというので、色々と連携できないかというお話もいただいているところです。これからは、ワンヘルスセンターの供用開始に向けたワンヘルス教育のあり方も、みやま市としては考えていかなければいけないと考えております。

【宮本教育委員】 そういったワンヘルスセンターがみやま市にできるということで、みやま市子ども達にとっては非常に良い施設になるだろうと思っております。できれば、近隣子ども達や、日本の国内、もしかしたら海外からも子ども達がやって来るような、みやま市だけではなくて、他のところの子ども達の教育にも使っていけるような施設になってもらえればと思います。そうすればみやま市民としても誇りにもなりますし、活性化にも繋がると思います。みやま市だけではなくて、いろんな人たちからみやま市のワンヘルスセンターはいいねと言ってもらえるように、ワンヘルスセンターに付随して人を受け入れていくような施設も必要ではないかと思っております。その辺いかがでしょうか。

【市長】 貴重なご意見ありがとうございます。みやま市は資源循環のまちづくりということ、バイオマスセンターのプラントをはじめ、電力の地産地消やごみの分別収集も、他市に比べて徹底して行われております。ワンヘルス教育、ワンヘルスセンターだけではなく、本市の魅力はたくさんあります。特にバイオマスセンターは日本でもかなり先進的な取り組みでもございますし、そういうものも含めて、みやま市は、色々な資源や財産がありゼロ

カーボンシティ実現に向けても取り組んでおります。そういう姿を見て、修学旅行先にみやま市も選んでいただけるような、そういう地域にしていけたらと考えております。

【井上教育委員】 実はですね、みやま市がワンヘルス教育を進めるにあたって、教育委員会では、ペットを買えばワンヘルス教育になるのかとか、金魚を飼えばワンヘルス教育なのかとか、そういう稚拙な議論から進んでいきました。そういう中で、学校に周知徹底を図りながら、ワンヘルス教育というのを進めていきました。ワンヘルス教育は、その目的なのか手段なのかという議論もありました。それで、一応、教育委員会としては、ワンヘルス教育をやる意味について、自然環境に恵まれたみやま市にあってワンヘルス教育を実施する事で、恵まれているところをあえて知ること、そして、この恵まれた自然環境の中で自分たちが生きているということを教えることが大事であり、ひいてはそれに気づかせることが、このワンヘルス教育の非常に大きな目的じゃないかというところまで議論を深めました。ワンヘルス教育を通して、このみやまの自然溢れる環境の中で学習できることに感謝しながら、色々なことで教育について考えていこう、教育をやり続けていこうと考えた次第です。このセンターができた後も学校と連携を図りながら、また、考えがあるならば、廃校になった学校跡地にもこのワンヘルスの考え方を活かして、例えばドッグランを作るとか、水族館を作ってみるとか。そして、地域の人たちが何か学べて関わるができる施設になればもっといいのではないかと教育委員会の中で話しておりますので、何か活かしていただければと考えております。

【教育長】 ありがとうございます。みやま市は本当に、市長が常々言われる良さがたくさんあります。その良さを活かしたワンヘルスの推進は、県下でも非常にすぐれた地域ではないかと自負しております。総務部長、何かございませんでしょうか。

【総務部長】 まずワンヘルス教育につきましては当然のことながら、このみやま市の教育委員会、学校教育課、室長、全学校で教育環境を作ってください、

全国のトップランナーでございます。この部分が今後、一つのモデルになってくるかと思えます。先ほど副市長がおっしゃったように、施設ができる上で県と連携しながら、ワンヘルス教育のあり方も今後膨らんでくると思えます。そこで、私自身が行政の立ち位置に今あるものですから、ワンヘルス教育の部分がどのような形で子ども達に影響を与えていくのかという部分につきましては学校現場に大きな期待を寄せております。皆さんたちのお力が出た独自に光る部分につきましてはきちんと行政の方で捉えていき、みやま市の一つの宝として、例えば今みやま市で課題になっている人口減少の問題とか子ども子育てのあり方とか、そういった政策の中でワンヘルス教育の成果を活かしながらやっていきたいと思っておりますので、お力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。

【教育長】

ありがとうございました。本当にワンヘルスというのは、県がセンターをみやま市に作っていただくことで、1つみやま市の大きな起爆剤のようなものになるのではないかと思います。ワンヘルス教育につきましては、先ほど市長それから副市長、総務部長からかなり過分なお褒めの言葉もいただいておりますが、それだけ教育委員会は肩の方に何か背負ったようなところもありまして、来年度以降、今までのワンヘルス教育をより充実させていかなければならないと決意を新たにしたところでございます。来年度以降も市長部局と連携を取りながらやって参りますので、よろしくお願いいたします。

【副市長】

議論が深まったところで大変恐縮ですが、1つだけ質問があります。私も大塚委員と一緒に山川中学校で行われた菌の授業、公開授業を見に行きました。あれを自分たちだけで見るのが大変もったいないという気がしました。養護教諭によるワンヘルス授業の公開範囲がどれぐらいなのか、来年度も含めて、市内の養護教諭の先生だけに公開されるのか、もしくは保護者の方も、例えば授業参観という形になってしまうかもしれませんが、興味のある方は見に来てもいいですという形にするのか、その辺りの検討が可能かどうかを教えてくださいたいです。

【指導室長】 ご質問ありがとうございます。学校教育としては、公開範囲を広げていきたいと考えております。今、いろんな学校で良い実践がたくさんあります。先ほど言われましたように、私たちが考えているのは、とにかく保護者を巻き込む、地域を巻き込むということです。そのような授業を行ったときには保護者に呼びかけたり、まず学校だけで写真などを沢山使ってお知らせしたり、保護者を呼んで実際に見てもらうというようなことをやっている学校もありますし、1月、2月、3月には1年間の学習発表会などがあります。校長先生方とお話しして、ぜひワンヘルスの成果発表をして欲しいということをお願いしていますので、保護者と地域を今巻き込んでいます。それからどの学校も、子ども達が全校あげて地域の良さを調べる学習を取り入れています。今年大きく変わったのは、そこにワンヘルスの視点を入れていることです。そして協力して下さるゲストティーチャーとも、ワンヘルスとはこういうものですから、こういった視点で子ども達を育てていきますという共通理解をする場を何回か持った後で、一緒に活動することを広めていますので、少しずつですが広がっていると実感しております。来年は2校、特に研究発表校も指定しておりますので、先生方にも広め、そしてまた地域へも広げていきたいと考えています。

【市長】 先生ありがとうございました。今年5月にはワンヘルスフォーラムを開催いたしました。その中で、南小学校の山口校長先生にワンヘルスの授業をしていただいて、非常に評判が良かったわけです。また今後、ワンヘルスフェスタという形で継続してやる場合についてはご協力いただけますでしょうか。

【指導室長】 はい。各校長先生方は、全校集会とか様々な場所で話をされていますので、協力できると思っております。よろしくお願いいたします。

【教育長】 ワンヘルスフェスタにつきましては、今年度は、校長先生が「みやま市ワンヘルス楽校」をされましたが、来年は子ども達を登場させたいということを指導室長や学校教育課長で話しているところです。できるだけ市民の前に子どもの姿を見せたいと思っております。

(3) 教育大綱(案)について

【教育部長】 教育大綱(案)について説明 [別紙資料]

【教育長】 教育部長の方からみやま市の教育大綱(案)について説明をいただきましたが、1 ページ目の大綱策定にあたってという部分、ここが松嶋市長の思いでございます。ここをしっかりと読み込んでいただきたいと思っています。それから、先程部長が申しましたように、基本理念の、みやまに学びみやまを愛しみやまに生きる人づくりという部分は、以前は、みやまに貢献する人づくりということになっておりましたが、生きるということに変えさせていただいております。それから、基本目標は、先ほど申しました通りでございます。6 番目の基本方針の後に、基本施策が付いておりましたが、それは部長も申し上げましたが、毎年作成しております教育施策の方で充実させていこうとしているところでございます。あと、4 ページと 5 ページにつきましては、これも部長が説明いたしました通りでございますので、やはりこの 5 年間でかなり変わりました。GIGA スクール構想も入りましたが、これも 5 年前はまだ考えられなかったことです。コロナウイルス感染症という大きなパンデミックもございましたし、教育に関しても教師不足という全国的な傾向でございます。このように 5 年間でこれほど教育環境等が激変した時期も珍しいのではないかと私自身は思っているところでございます。教育大綱について、忌憚ないご意見等いただきたいと思っております。井上先生ありませんか。

【井上教育委員】 教職員不足、教職員のなり手不足ということですが、市長はどのように考えておられますか。

【市長】 対策としては、実は非常に難しいと感じています。現在、教員の過重労働が問題となっておりますが、子ども達に夢と希望そして将来の力をつけさせるそういう素晴らしい職業が、マイナスイメージでとらえられていることを私は非常に懸念しております。解決策としては、若い人たちへの意識付けを行い、併せて社会労働環境も含めて、しっかり改善していかなばならないと思っています。特にみやま市においては、35 人学級を中学校で先駆けてやっておりますが、先生が集まらないという状況で

す。そういう中で非常に苦慮しているわけですが、学級を増やすということではなく、教科の方にてこ入れしながら先生を探していく方向も含めて、色々方策を考えながら進めて参りたいと思っております。

【教育長】

先生不足というのは、福岡県の教育委員会も非常に苦慮しており、例えば大学 3 年生から一次試験受験可能になりました。採用試験を前倒しすることで、3 年生での受験が可能になる点も含めて、現在、夏ぐらいに行われている受験がずっと前の方に動いていくのではないかというようなところも県の教育委員会は考えてあります。それから、市長が言われたように、教職がマイナスイメージで捉えられている感は否めませんので、人を育てる、夢がある職業だということをしっかり啓発していく必要があると思います。

【副市長】

先程指摘された通り、教職員のなり手不足、教職員不足というのは、なかなか市町村単位で解決できることではないと思います。県単位以上、もう国全体の問題になってきていると思いますが、一方で、自治体で、市町村単位で何ができるかということになってくると、この大綱策定にも書かれているように、いわゆる学校単位での働き方改革の推進だと思います。今 1 人 1 台端末が普及してきて、先生たちも端末活用されるようになってきて、これからは教育だけではなくて、校務にも端末を活用して業務の効率化を図っていく必要があると思います。そういうところに関しては教育委員会でも積極的に進めていただきたいと思います。

【学校教育課長】

働き方改革は問題になって久しく、少しずつでも解決を図っていかなければならないと常に考えている問題でございます。副市長がおっしゃるように、校務にも端末を活用するなどして進めていかなければなりません。最近取り組んでおりますことの一つに、児童生徒の欠席の連絡を学校に電話でされるわけですが、人数が多い学校ではこれが非常に負担になっておりまして、これを解消するために、今の校務システムを使ってメールで管理し、保護者が対応できるようなシステムを導入して、準備ができ次第、それぞれの学校単位で導入していただくようお願いしているところです。これは小さな一歩ですが、こちらにも積み重ねて働き方改

革を進めて参りたいと考えております。

【宮本教育委員】 教育大綱の 5 ページ目の (4) の文化スポーツの振興事業というところに関して、スポーツの振興、文化の継承というのは地域にとっても非常に大事なことだと思いますが、現実問題として、スポーツ振興と言いながらも、スポーツ大会がなくなり、地域の祭りも人手不足や高齢化によりなくなっているというのが現状だと思います。特に思ったのが、コロナ感染症の拡大を契機に人の集まりが制限され、急激に減ったような感覚があります。そういった集いがなくなることによって、地域のコミュニケーションが減り、子ども達のコミュニケーション不足によって不登校の増加などにも、もしかしたら繋がっているのではないかと考えています。ただ、ではどうすればそういった集いが取り戻せるのかというのは自分の中に考えが浮かばず、どうしたらいいものなのか。皆さん、気持ちちは多分一緒だろうと思っています。人とのコミュニケーションや集まりが大切だという思いは一緒だと思いますが、どうやったらその歯車が回り出すのかということです。

【市長】 宮本委員がおっしゃるように、集まって交流する場というのがなくなってきていることで、子ども達にコミュニケーション能力が育まれにくくなっているのではないかと考えています。整備も含めて、コロナ感染症を口実に不登校で困ってしまいゲームを何時間もしてしまうとか、この間も青少年健全育成の大会があった時に、山門高校の生徒さんでしたが、彼が言うにはコロナ禍が始まって、毎日 8 時間ゲームをしていたそうです。そのゲームから抜け出すのがなかなか難しく、このままではいけないと葛藤した体験を英語で発表してくれました。それにより、子ども達がコロナ禍の中でどういう状況だったのかということ、はっと気付かされました。そういう意味でいうとやはり何とかしなければいけないという思いはいっぱいです。私の地元でようやく今年から小田祇園祭が復活しました。金太鼓を叩くのですが、お宮の神事と合わせて、男の子も女の子も叩いて参加しています。このように、色々なところで子ども達の、大江の幸若舞にしてもそうですし、新開能にしてもそうですが、地元の

子ども達に関わる場をどんどん復活していくように、市としてもできるだけそのような投資ができればいいと思っております。そういう意味で、ぜひとも地域でまた子ども達が集まって色々なことができる機会を推奨していただきたいと思っております。また学校教育の場においても以前、清山学寮みたいな形で行っていた通学学級等を含めて、色々な場で子ども達が表に出ていける環境を作っていけたらどうかと思っております。

【大塚教育委員】文化スポーツの「スポーツの振興」というところで、e スポーツというジャンルが最近出てきたという記述がありますが、これはゲームですよね。スポーツなのだろうかという疑問があります。私はスポーツ推進委員等もやっておりますので、体を動かすことがスポーツだと思っております。ここにその記述があることに私は少々違和感を覚えております。これはどのようにお考えでしょうか。

【社会教育課長】e スポーツはそれほど知らないのですが、先程、スポーツという言葉が出ましたが、実際確かにゲームです。今、近隣の学校でそういうクラブもできたりもしています。総合市民センターミヤマックスが開館いたしまして、2回ほどそういう体験事業をしております。総合市民センターを色々な方に利用していただいて、子どもから高齢者の方まで世代を超えた交流の拠点とするというのが施設のコンセプトでもあります。市でもDX化を推進しており、このe スポーツもせっかく手がけましたので、今後交流や認知症予防等といったところでも活用できればと思っております。そこで、ジャンルについては少しまた検討させていただきたいと思っております。

【副市長】私も、大塚委員が言われる通り、e スポーツは果たしてスポーツなのかという部分は、個人的にはすごく疑問に思っています。ゲームをあまりしてきていないので、あれはスポーツですと言われても少し理解ができないところではあります。一方で、やはり時代の流れといいますか、例えばスケボーも以前は、公園で子どもがやる少し迷惑な遊びというような認識だったと思いますが、それが今やオリンピック競技になっています。e スポーツについてもオリンピックがどうのという話まで出てきているこ

とを考えると、もうスポーツという言葉が、以前のように体を動かして人間の持つ体の能力をいかに引き出すかということに留まらなくなってきているのかもしれないという思いがあります。このくだりは、どちらかというところ e スポーツを進めるというよりも、スポーツそのものがそうやって新しく色々なことが出てきているので、そういうことにも目を向けて進めていきたいと思います。e スポーツそのものを推進するというよりも、新たなジャンルがどんどん出てきているので、そういうことも見据えたところで、スポーツの振興を考えていくということだと思います。もう少し補足すると、e スポーツはゲームだとは思いますが、一方では、足が不自由な子供であってもサッカーができるとか、そういった新しいスポーツの考え方ではあると思っています。

【教育長】

ありがとうございました。教育大綱につきましては、今の教育大綱からかなり改善を図っております。これも総合教育会議の大きな使命の中にもございますので、教育大綱（案）につきましては、一定の方向性ということによろしいでしょうか。ありがとうございます。共通理解、認識を図っていただきました。

(4) その他

次回開催予定 みやま市総合計画の後期基本計画の策定後

【午後 5 時 閉会】